

かゑらじと かねて思へハ 梓弓
なき数に入る 名をぞとどむる
四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第74号

平成30年8月7日

発行＝四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

電通大「まさつらカルタ」制作、いよいよ佳境

企画運営・記録班

四條畷市に協力求め表敬訪問

絵札・字札等の制作始まる

大阪電気通信大学総合情報学部と四條畷楠正行の会の提携事業（四條畷市・四條畷市教育委員会後援）第2弾、「正行カルタ」の制作プロジェクトが瀬頭調に進んでいる。

平成29年度は、武将、楠正行を後世に伝える絵本の制作を手掛け、「正行の友」「正行の学び」「正行の大志」「正行の恋」

「正行の情け」「正行の最期」6分冊1巻本を完成、四條畷市の二つの図書館で広く市民に閲覧されている。

平成30年度は、引き続き郷土四條畷の誇り、歴史上ゆかりの人物である楠正行への理解が進むことを目的に、カルタ「くすのきまさつら」の制作に取り組んでいる。完成した楠正行の生涯を描いた絵札と字札（加えて絵札・字札のしおり&史跡関係地図）によって、子どもたちが子どもたち同士、また大人も入って家族や地域ぐるみでカルタ取り遊びをする中で、郷土ゆかりの人物を学べる仕掛けである。

21人の学生6班で

大阪電気通信大学社会プロジェクト実習は、3回生対象に開かれる正課の授業で、4月、木子香准教授の下21人の学生が参加してスタートした。

5月第1週の授業で、我々クライアントである四條畷楠正行の会のメンバーと初めての対面があり、復刻版四條畷の郷土史かるたを使ってカルタ遊びを通じて親交を深めた。

そして、今年のプロジェクトは、各班に分かれて役割を分担し、秋の完成を目指している。班構成は、「企画運営班」

（イベント開催等の企画・運営を担当し、出来上がったカルタの宣伝・啓発をする）「記録班」（制作過程を映像等で記録し、大学の内外に発信するとともに、最終的に報告書にまとめる）「絵札班」（45枚の絵札を制作する）「字札班」（45枚の字札を制作する）「しおり班」（各絵札・字札の説明文を一冊にまとめ、地図も作成する）「箱班」（絵札・字札・葉・地図を入れる箱を手作る）の6グループ。

講義・現地学習

5月から6月にかけて、教室の講義2回と現地学習2回（吉如意輪寺・大阪市内渡辺橋&四畷神社、小楠公墓所等）によって学生たちは楠正行という人物についての知識・認識を深めた。

そして、字札の句については、クライアントである四條畷楠正行の会が監修の上、6月13日に決定・発表した。

そして、この日から、いよいよ具体的な各班ごとの制作がスタート。各班ごとにディスカッションをしながら、8月23日の集中講義で試作を完成・発表の予定。

4人の課長、協力約束

企画運営班は、今後、四條畷市や四條畷市教育委員会の協力を得てイベントを開催する企画を立てており、6月29日、四條畷市を表敬訪問した。（写真上：四條畷市役所東別館前で集合し談笑する学生 下：4人の課長と面談する学生ら）

この日、市役所会議室で開かれた顔合わせ会には、市役所側から鈴木産業振興課長、中西魅力創造室課長、神本生涯学習課長、勝村公民館長の4人が出席、企画運営班と記



録班から学生6人と、扇谷、国府が出席した。

企画運営班の坂本班長から、プロジェクトの目的、楠正行を知ってもらう方法、これまでの活動について説明し、出席した各課長からは、「四條畷発信にご協力ありがとうございます。」と励ましの言葉をいただき、スケジュール調整を急ぐよう宿題ももらった。

この後、市役所関係部署を回り、協力を要請した。

くすのき小も訪問

また、7月6日には、カルタ大会の開催を予定しているくすのき小学校に香村校長を表敬訪問した。

ここでもプロジェクトについて報告するとともに、くすのき小学校で予定している児童によるカルタ大会の開催の詳細な打ち合わせを行った。

くすのき小学校は、校区内に小楠公墓所を有し、毎年、3年生が郷土学習の一環として小楠公墓所を訪れ楠正行について学習していることから、同校でのカルタ大会を企画したもの。

記録班、通信発行

記録班は、カルタ制作プロジェクトの進捗に合わせて、大学の内外に取り組みの状況を発信する目的で、「大阪電気通信大学まさつらカルタ通信」を発行することとなり、7月6日、第1号を発行した。

同通信は、これまでの取り組みについて、写真をふんだんに使って分かりやすく説明。

四條畷市が観光可視化戦略を策定した時にプロジェクトメンバーの一人が作成した正行キャラクターの使用許可を取り、題字下に入れるなど、行政との連携をしっかり図り、「ちょっとこぼなし」コーナーを作るなど、学生らしさいっぱい親しみやすい通信となっている。

この「まさつらカルタ通信」については、四條畷市立教育文化センターの公式ホームページにアップしている。

<http://nawate-kyobun.jp/>

(写真：産経新聞7月6日付朝刊紙面)



<第三种郵便物認可>

身近な情報をお寄せく

楠木正行 かるたに

四條畷の市民団体 今秋完成目指す

南北朝時代に父・楠木正成の遺志を継いで室町幕府軍と戦い、「四條畷の戦い」で散った嫡男・楠木(楠)正行を顕彰する市民団体「四條畷楠正行の会」(四條畷市)が正行をテーマとする「かるた」の作製を進めている。大阪電気通信大四條畷キャンパス(同市)の学生らが協力しており、10月末頃の完成を目指している。

(藤崎真生)

「正行の会」は平成29年度に、同大総合情報学部デジタルゲーム学科の学生らとともに正行に関する絵本6冊を仕上げたことがある。第2弾となる「カルタ」くす



かるた作製にあたって行われた正行の生涯を解説する授業 四條畷市

のきまさつら」の作製には、同学科の学生約20人が参加。正行の生涯を扱った絵札と字札それぞれ45枚を作る。学生らは実習授業で、正行を祭

大阪電気通信大四條畷キャンパスの学生ら協力

る四條畷神社のほか、戦亂中に逃げ場を失って川に落ちた敵兵を正行らが助けた逸話が残る「渡辺橋」跡(現・大阪市の天満橋付近)など「ゆかりの地」を訪問。さらには、「正行の会」代表の扇谷昭さん(69)らが講師となり、「太平記」の記述やナレーションなどをまじえた詩吟「構成吟」などで正行の生涯を解説した。扇谷さんは「正行を後世に伝えるため、『目に見えるもの、手に取れるもの』を作ることが重要。みなさんにかかる期待は大きい」と授業で学生らに呼びかけた。同大3回生の坂本直哉さん(20)熊取町は「渡辺橋」のエピソードをみても、正行は『徳のある人物』であることが伝わります。計画を通じて、郷土の英雄である正行のことを、より多くの人に知ってもらいたい」と語った。かるたが完成した際には、市外の子供らとの大会も企画し、郷土の英雄の「軌跡」を幅広い世代で学べるように働きかける方針。「正行の会」によると、将来は商品化も計画しているという。

【大阪電気通信大学社会プロジェクト木子班】

くすのきまさつらカルタ制作

- * プロジェクトの目的
四條畷市に住んでいる人にもあまり知られていない楠正行を一人でも多くの人に知ってもらう
- * 楠正行を知ってもらう方法
 - ・楠正行のことが学べるカルタを制作し、そのカルタを使用し楠正行ゆかりの地で大会を開く
 - ・大会を通じて多くの人に遊んでもらう
 - ・カルタの原画展を開き、多くの人に見に来てもらう

- * これまでの活動
如意輪寺や四條畷神社を訪問し、楠正行の理解を深めた。詳しい活動履歴はブログにまとめてあります。

<https://kusunokiblog.localinfo.jp>

(文責『四條畷楠正行の会』代表 扇谷昭)